

【短報】ケブカヒメヒラタホソカタムシを長崎県(対馬)と奈良県から記録

ケブカヒメヒラタホソカタムシ *Synchita hirsuta* Aoki, 2008 の原産地は徳之島天城山 (Aoki, 2008) で、ついで奄美大島金作原と加計呂麻島で見つかり、その時点では奄美群島のみでの分布であった。その後さらに沖縄島国頭村で見つかったが (青木, 2009a, b, 2012), 現在までそれ以外での報告は見受けられない (青木, 2017)。今回、既知の分布地から大きくかけ離れた九州 (対馬) と本州 (奈良県) から発見されたので、新しい本種の分布地の記録として報告する。

1 ex., 鹿身林道, 対馬, 長崎県, 20-VII-2018, 伊藤建夫採集。1 ex., 春日山, 奈良公園, 奈良県, 12-V-2018, 伊藤建夫採集。2 exs., 春日山, 奈良公園, 奈良県, 11-VII-2018, 伊藤建夫採集。

検視標本はいずれも広葉樹の立ち枯れから採取され、なお対馬の個体はテネラルと思われる赤褐色を呈していた。

これまでの本種の分布を伊藤 (2017) が発表したユミセスジホソカタムシ *Lasconotus sculpturatus* (Sharp, 1885) の分布とともに地図上にプロットしてみると (図3), いくつかの興味ある点を指摘することができる。すなわち両種の分布は、現存する比較的保存された照葉樹林帯の分布に一致し、奈良公園, 対馬, 奄美大島の3地点については両種が同所的に発見されている。このことから両種とも本土側 (現分布の北限もしくは東限側) で更なる分布地が発見される可能性があることが示唆される。

本種の写真での同定と既知産地と新産地の記録に意見をいただき発表を勧めて頂いたうえ、原稿を見て頂いた青木淳一博士に深謝する。

末尾になるが、奈良公園の調査は奈良公園事務



図1-2. ケブカヒメヒラタホソカタムシの全形図 (1, 奈良県産; 2, 対馬産)。



図3. 分布図。●: ケブカヒメヒラタホソカタムシ; △: ユミセスジホソカタムシ。

所からの学術調査入山許可のもとに行われたものであることを付記しておく。

引用文献

- Aoki, J., 2008. A new species of Colydiinae (Coleoptera, Zopheridae) from Tokunoshima Island, Southwestern Japan. *Elytra Tokyo*, 36: 275-278.
- 青木淳一, 2009a. 図鑑に載っていない日本産ホソカタムシ. *神奈川虫報*, (165): 1-15.
- 青木淳一, 2009b. *ホソカタムシの誘惑*. 194 pp. 東海大学出版会.
- 青木淳一, 2012. *日本産ホソカタムシ類図説*. 92 pp. 昆虫文献六本脚.
- 青木淳一, 2017. いわゆるホソカタムシ類の所属変更と新しい種リスト. *さやばねニューシリーズ*, (28): 1-9.
- 伊藤建夫, 2017. ユミセスジホソカタムシの奈良県からの記録. *さやばねニューシリーズ*, (27): 35.

(伊藤建夫 614-8371 八幡市男山雄徳 7,E12-102)